


AI×DXでペーパーレス化と自動化・効率化を実践できる ゼロからはじめるDX内製化の基礎研修






これからの時代、他社と差別化するにはDX戦略が不可欠です。しかし、DXに取り組もうと思っても、スキルがない…人材がない…予算がない…。
この研修を受講すればゼロからでも、最新のAIツールなどを活用してペーパーレス化や自動化・効率化に取り組めるようになります。受講して終わりではなく、すぐ行動に移せる実践力を学べるのも魅力です。
DXは一過性のものではなく継続的に取り組むことが重要。10年後、20年後も会社の成長へ導くスキルを身につけることができます。

研修時間：16時間

- オンライン・オンラインの選択可
- 日程調整可
- 3名から開催
- 貴社の目標に合わせてカスタマイズ
- 初心者でも可

こんなお悩みありませんか？



-  AI活用やDXを推進できるスキルやノウハウを持つ人材がない
-  IT人材は高額なため、必要な費用の確保が難しい
-  社内全体でのDXの重要性が理解されないため進められない



この研修を受講すれば**すべて解決します！**

しかも今なら

リスキリング支援助成金が利用可能

本研修で利用できる人材開発支援助成金「事業展開等リスキリング支援コース」は業務の効率化などに取り組むため、デジタルに対応した人材の育成に取り組む事業主を対象に、訓練経費や訓練期間中の賃金の一部を高率助成により支援する制度です。
経費助成率：75% 賃金助成額（1人1時間）：960円 助成限度額：1億円 16時間研修の限度額（一人あたり）：30万円



研修受講のメリット



ペーパーレス化や業務効率化、コスト削減が実現できる



社内全体のIT/AIリテラシーが向上できる



ヒト・モノ・カネなどのリソースが有効利用できる



従業員の働き方改革やモチベーションアップにもつながる



素早い意思決定によりライバルに差がつけられる



情報漏洩やサイバー攻撃などのセキュリティリスクを軽減することができる

研修内容

第1章 中小企業におけるDX内製化の必要性と成功法則

1. そもそもDXって何？DXとITとの違いとは
2. DXの現状と課題
3. 中小企業がDXを内製化しなければならない理由
4. 成功させるDXの進め方とポイント
5. DXの成功事例

第2章 DXを内製化するために必要な基礎知識

1. DX推進人材に必要なスキル
2. DXに活用されるシステムやテクノロジー
3. 目的実現に向けたプロセスの一貫した推進する「ビジネスアーキテクト」
4. 製品・サービスのあり方を担う「デザイナー」
5. データを収集・解析する仕組みの設計・実装・運用を担う「データサイエンティスト」
6. システムやソフトウェアの設計・実装・運用を担う「ソフトウェアエンジニア」
7. サイバーセキュリティリスクの影響を抑制する対策を担う「サイバーセキュリティ」

第3章 AI活用で生産性を最大限に引き出す方法

1. 業務に活用できるAIツールとは
2. AIツールの活用事例
3. マーケティング活用、戦略立案、情報分析等の実践演習
4. AIツールの導入と運用方法
5. AIツールを運用する際の注意点

第4章 守りのDXで劇的改善！ペーパーレス化と自動化効率化の実践手順

1. 日本企業の危機的状況を打破するには？
2. 両利きのDXをやらなければならない理由
3. 社内風土の醸成
4. DX推進する体制づくり
5. 守りのDXを実践！V3Sサイクルを回そう

第5章 30年後でも勝ち続ける企業のために必要なこと

1. 攻めのDXでビジネスチャンスを創出する
2. 忘れてはいけないセキュリティリスクとは？
3. 他社との差別化にはDXスパイラルを実行せよ
4. DX推進の鍵となるコミュニケーション手法
5. まとめとQ&A

研修に関してのご相談はこちらから↓



<https://aka-link.net/shanai-kenshu/>

※内容は予告なく一部変更する可能性があります。あらかじめご了承ください。



経済産業省認定 IT支援事業者

アカリンク合同会社

info@aka-link.net

<https://aka-link.net>

050-5436-8827



経済産業省認定

Smart

SME

Supporter

第21号-22040041 (19)



担当講師：相馬正伸

これまで、IT歴25年で延べ3万人以上のITについての相談にのり、合計100億円以上のシステム導入に携わる。現在は、経済産業省認定のIT支援事業者として、ITツールを50以上取り扱い、DX化の推進を行っている。著書『超DX仕事術』サンマーク出版